

令和5年度  
事業報告書

社会福祉法人 みんなでいきる

## 1. 法人の現況

### 1-1 令和5年度総括

令和5年度も厳しい経営状況であった。本当に本当に苦しい1年だった。

その中でも昨年度より粘り強く、地道に続けた職員募集のためのポスティングや定期的な職場説明会、SNSを活用した発信には手応えがあり、完全に、とまではいかないが高齢部門については人員確保の目処がついた点は、暗闇をずっと歩いている中に見えた長いトンネル出口の光のように思えた。当初の計画よりは約1年遅れたが、一部ユニットを閉鎖していた2施設(サンクス米山・サンクスレルヒの森)について、フルでの開所まで漕ぎつけることができた。

周囲の同業福祉事業法人の状況を見渡すと、数年前の我が法人のように、人員不足による一部ユニットの一時的な閉所の状況があった。また、人員不足の中で稼働を確保していた法人からの人材の流失の声も聞かれた。長らく運営されていた大規模な高齢者施設の閉鎖の便りも届いた。これまでの我々の苦しみは現在、当たり前前に起きている状況をいわば先取りして体験した痛みだったようにも感じる。

運営の痛みを味わったここ数年の中で我々が学んだことは「社会福祉法人だからこそ、安定した経営を行う義務がある」ということであった。

上越地域を含めた我が国は、著しいスピードで少子高齢化に進んでおり、担い手となる職員は今後も安定的に採用できる保証は無い事を踏まえ、稼働率はもちろんのこと様々な加算や日々の実績、また職員の労働管理や業務の効率化、平準化を常に意識した取り組みが必要である。更なるDX化や短時間介護職員(介護補助職)のタスクシフティング、オムツ交換の回数を減らすことによる利用者・職員の心的・時間的負担の軽減など既存の考え方に捉われない業務改善を引続き急ぎ進めていく必要がある。

「みんなでいきる」は高齢者福祉事業のみならず、障害福祉サービス事業、児童養護施設、保育園、地域包括センター、障害者芸術文化活動等、その活動は多岐に渡り、上越地域にとって人々の生活を支える「決してなくてはならない」法人となった。職員数は500人に迫り、日々支えている利用者は1000人近くにもなる。その自覚を責任と誇りを持つ義務が我々にはある。

日本で最も規模が大きいとされる社会福祉法人恩賜財団済生会会長の潮谷義子氏(元熊本県知事)は令和5年11月に開催された社会福祉法人、福祉関連企業、研究者などが参加する「福祉法人経営学会」の学術講演において「福祉は慈善や寄付で賄われる時代ではない。どんな運営をしていくかという視点は絶対に外せない」「いい運営をするには稼がないといけない。稼ぐには地域、行政、経済界などから評価されないといけない」と述べている。

「地域や社会に貢献するため稼ぐ」このごく当たり前のことを私たちは、深く強い痛みの中で学んだ。実践するには、「稼ぐ」ことを阻む阻害要因を分析し、時には厳しい目線・態度で向き合わねばならないという覚悟を持たねばならない。

## 2. 令和5年度事業方針の取組について

### 2-1 「部門別予算」の達成

(単位：千円)

拠点名	事業収入		達成率	事業損益		達成率
	当初予算	決算額		当初予算	決算額	
サンクス米山	556,538	489,733	88.0%	4,840	80,421	-
サンクス柿崎	209,223	164,396	78.6%	660	54,399	-
サンクスレルヒの森	461,757	434,078	94.0%	5,101	55,727	-
りとるらいふ	337,227	332,005	98.5%	23,616	11,147	47.2%
若竹寮	223,097	224,116	100.5%	20,889	25,911	124.0%
つちはし保育園	219,839	222,500	101.2%	18,658	14,470	77.6%
相談センター	85,331	88,947	104.2%	15,823	17,912	113.2%

【2023年度達成目標：介護・障害部門をフル開所し、黒字化を達成する】

最大達成目標であった黒字化の達成については、予算と大きく乖離した決算内容となった。年度当初、不足人員の解消を第1四半期と見込んで計画を立てていたが、充足の見通しが立ったのが2023年12月であり両施設ユニット開所が遅れたことが大きな要因である。

サンクス米山は12月21日、サンクスレルヒの森は9月21日から順次閉鎖してあったユニットを開所しており、2023年度末においては両施設とも閉鎖ユニットが無い状況となっているが、それまでに計上した欠損を補うまでには至らなかった。

### 2-2 人事制度を見直し、やりがいのある職場環境の創出

コンサルタント（日本経営）のアドバイスを得て、やりがいが持てる人事制度の見直しに着手した。人事制度の枠組みや考え方、人事考課の整理などの目途をつけることができ、下期より試験的な運用を目指していたが、制度変更に伴う給与改定など一時的に費用が増額することとなる為、まずは経営安定化を最優先とすると判断し制度改定プロジェクトを一時凍結として次年度以降へ持ち越すこととした。

各施設において、安定的な運営が実施できた段階で再度制度改定を実施する。

### 2-3 売上・労働時間管理を全施設において導入し、現場において数字の意識を高める

「特養サンクスレルヒの森」及び「障害サポートセンターりとるらいふ」において先行的にサービス毎での一日の収入および労働時間の管理をスタートした。

効果として、

- ・ サービスにおける収入のバラつき（単価の違い）などの気づきがあり、どうしたら収入が上がるかなどと職員から質問が上がってきた。

福祉サービス制度の研修を実施し、ひとり一人の動きが収入に直結することを意識できる環境が生まれた。

- ・ ユニット毎に時間で働く人が足りているか足りていないかを直の現場にて把握することができ、ユニット長が自発的に他のユニットへの応援体制を話し合える環境が生まれた。

次年度は、上記の効果も踏まえ全施設において導入し、収入を上げるための意識づけや、働くことにおける時間管理を現場レベルまで落とし込める運営を実施する。

## 2-4 正規職員の離職率5%以内

### 入職率／離職率推移表

推移期間 2021年 4月 1日 ～ 2024年 3月31日

社会福祉法人みんなでききる  
【雇用区分別】

	2021年			2022年			2023年					
	在籍社員数	入職率(%)	離職率(%)	入職超過率(%)	在籍社員数	入職率(%)	離職率(%)	入職超過率(%)	在籍社員数	入職率(%)	離職率(%)	入職超過率(%)
		入職者数	離職者数	入職超過数		入職者数	離職者数	入職超過数		入職者数	離職者数	入職超過数
合計	334	18.56 62	14.67 49	3.89 13	347	34.58 120	19.31 67	15.27 53	402	25.37 102	16.42 66	8.95 36
正職員	237	18.14 43	10.97 26	7.17 17	254	29.53 75	18.11 46	11.42 29	285	19.30 55	15.79 45	3.51 10
契約職員	18	5.56 1	5.56 1	0.00 0	18	38.89 7	38.89 7	0.00 0	18	27.78 5	22.22 4	5.56 1
パート職員	79	22.78 18	27.85 22	-5.07 -4	75	50.67 38	18.67 14	32.00 24	99	42.42 42	17.17 17	25.25 25

正職員の離職率については、15.79%と目標は達成できなかった。

また、契約職員・パート職員を含めた離職率は16.42%となり、昨年度は下回ったものの、退職者数はほぼ同数、前々年度と比較しても大きな改善は見られなかった。

退職者の分析をしてみると、勤続年数3年未満の退職者割合は57%、1年未満となると36%となり、早期離職の防止が課題となる。

また、過去において退職理由として多かった仕事への不満や人間関係などは減少してきているが、心的不調などの身体的不調が今年度多くみられた。

今後離職対策として研修や面談などの機会を多く設けることにより、離職率の低下 = 定着率の向上 = 施設運営の安定化を図る。

## 2-5 社会福祉法人としての公益性に根差した事業活動の継続

### (1) 「若竹みらい創造基金」の普及促進

上越市の協力により、広報じょうえつ・広報Jステーションにて周知を実施した。  
また、寄付金を受領する際にメディアより取材に入ってもらふことによる周知も実施した。

寄付受領額	30人(50件)	2,418,682円(団体含む)
基金給付額	7人	951,400円
	(一時給付金)	157,000円)
	(家賃給付金)	794,400円)

## 2-6 高齢福祉事業及び障害・児童福祉事業の更なる融合

### 【事業部間職員異動実績】

令和1年度異動者	2人
令和2年度異動者	9人
令和3年度異動者	3人
令和4年度異動者	5人
令和5年度異動者	1人

異動前	異動後	人数	摘要
若竹寮	りとるらいふ	1人	

施設運営を安定させることを優先し、異動については必要最低限とした。

## 2-7 優秀な人材確保及び離職防止に向けた採用研修への取り組み。

### 令和5年度入職新卒職員採用者数

最終学歴	採用数	配属部署	
大学卒	3人	高齢福祉事業	4人
短大専門卒	3人	障害福祉事業	0人
高卒	0人	児童福祉事業	2人
計	6人		

上記採用者数の内訳(重複あり)

県外大・短大卒数(1人)	上越市外出身者数(0人)
福祉系大卒(2人)	福祉系短大専門卒(3人)
障害雇用(0人)	

法人設立以来初の高卒採用ゼロとなる。

#### 新卒入職職員等へのフォローアップ研修の実施

目的：1年目の目標の明確化及びフォロー実施することによる離職防止

日程：3回開催（5，10，2月）

コロナウイルス感染症が5類になったことに伴い、2年目から5年目までの年2回のフォローアップ研修及び主任・係長研修を再開した。

#### 【研修内容】

- ・なりたい私になる
- ・感情労働とセルフケア
- ・連携のポイント
- ・合意形成の考え方（自分も相手も活かせる伝え方）
- ・チームで働くという事
- ・管理職になる時に知っておきたい労務管理

### 3. 法人の概要

#### 3-1 事業所の概要

事業部	事業所名	サービス名	定員	管理者	開設年月
高齢福祉 事業部 「サンクス」	介護老人保健施設 サンクス米山	介護老人保健施設 通所リハビリテーション 訪問リハビリテーション	100名 30名	小谷 貢	H15.9
	サンクス柿崎	短期入所生活介護 通所介護	40名 25名	太田 靖	H25.4
	特別養護老人ホーム サンクスレルヒの森	介護老人福祉施設	100名	塚田 光知子	H27.6
障害福祉 事業 「りとるらいふ」	りとるの家	生活介護「きら」	20名	久保 久美子	H22.4
	りとるの家はなれ	放課後等デイサービス「ららん」	10名	久保 久美子	H24.5
		短期入所「ぷあん」	8名	片田 竜一	
	とも	生活介護「とも」	20名	久保 久美子	H30.4
	にこ	放課後等デイサービス「にこ」	10名	久保 久美子	H27.6
	ぱれっと	放課後等デイサービス「もーと」	10名	久保 久美子	H31.4
		グループホーム「ふぁみりあ」	12名	片田 竜一	H31.4
		生活サポートホーム「ぱれっと」	6室	片田 竜一	H31.4
しゃぼん玉クラブ	高田西小学校放課後児童クラブ	75名	片桐 公彦		
児童福祉 事業	児童養護施設 若竹寮	児童養護施設	56名	片桐 友紀	H29.4
	つちはし保育園	保育所	200名	山本 宏昭	R4.4
地域生活 支援事業	みんなでいきる 相談センター	地域包括支援センター 居宅介護支援 特定計画相談支援 障害児相談支援 上越市生活困窮者支援事業 上越市子どもほっとライン事業		江部 健幸	H30.4

3-2 施設職員数の推移 正職員 他 契約職員・パート・アルバイト

拠点名	年 度	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	増 減
サンクス米山	正	71人	67人	77人	+10人
	他	31人	31人	36人	+5人
	計	102人	98人	113人	+15人
サンクス柿崎	正	29人	28人	28人	+0人
	他	13人	15人	15人	+0人
	計	42人	43人	43人	+0人
サンクスレルヒの森	正	52人	48人	48人	+0人
	他	38人	48人	64人	+16人
	計	90人	96人	112人	+16人
りとるらいふ	正	46人	48人	52人	+4人
	他	28人	28人	31人	+3人
	計	74人	76人	83人	+7人
若竹寮	正	31人	35人	33人	2人
	他	7人	5人	15人	+10人
	計	38人	40人	48人	+8人
つちはし保育園	正	11人	45人	49人	+4人
	他	0人	9人	8人	1人
	計	11人	54人	57人	+3人
相談センター	正	14人	15人	13人	2人
	他	0人	0人	0人	+0人
	計	14人	15人	13人	2人
法人本部	正	6人	6人	6人	+0人
	他	1人	1人	2人	+1人
	計	7人	7人	8人	+1人
総 計		378人	429人	477人	+48人

常勤数 260人 292人 306人

非常勤数 118人 137人 171人

常勤割合 69% 68% 64%

### 3-3 財産債務及び損益の状況の推移

#### (1) 財産債務の推移

(単位：千円)

事業年度 項目	令和3年度 R4.3.31現在	令和4年度 R5.3.31現在	令和5年度 R6.3.31現在	増減
流動資産	499,039	506,860	429,462	77,398
固定資産	2,640,233	2,521,533	2,414,804	106,729
基本財産	2,412,217	2,320,441	2,217,292	103,149
その他の固定資産	288,016	202,093	197,512	4,581
資産の部計	3,139,272	3,028,393	2,844,266	184,127
流動負債	375,580	359,390	443,569	84,179
固定負債	1,939,785	2,198,198	2,143,192	55,006
負債の部計	2,315,365	2,557,588	2,586,761	29,173
純資産の部計	823,906	470,805	257,504	213,301

#### (2) 損益の推移

(単位：千円)

事業年度 項目	令和3年度	令和4年度	令和4年度	増減
サービス活動収益	1,876,124	1,848,684	1,997,321	148,637
人件費	1,273,643	1,404,682	1,471,617	66,935
事業費	253,367	287,350	291,015	3,665
事務費	291,391	282,204	285,390	3,186
減価償却費	122,163	124,486	106,457	18,029
その他	7,886	7,503	8,601	1,098
サービス活動費用	1,948,450	2,106,225	2,163,080	56,855
サービス活動増減差額	72,326	257,541	165,759	91,782
サービス活動外収益	9,110	14,911	15,224	313
サービス活動外費用	17,896	21,519	28,677	7,158
経常活動増減差額	81,112	264,149	179,212	84,937

### 3-4 会議の開催状況

#### (1) 理事会（定数7人）

回数	開催年月日	出席 理事数
第1回	令和5年5月31日	7人
第2回	令和5年7月10日	7人
第3回	令和5年11月30日	7人
第4回	令和6年3月29日	6人

#### (2) 評議員会（定数8人）

回数	開催年月日	出席 評議員数
第1回	令和5年6月15日	6人

### 3-5 監査の状況

#### (1) 法人監事による監査

実施日時：令和6年5月16日

場 所：法人本部

監査項目：会議開催状況、決算、資産・負債残高照合

監査所見：特になし